

経営協議会学外委員からの意見に係る取組事例（平成25年度）

意見の概要	主な取組事例
<p>○ 九大は女性教員比率が上がっているが、自己評価に反映されていない。もっとポジティブに評価すべき。</p>	<p>○ 指摘を踏まえ、女性研究者支援の取組に係る自己評価について修正した。</p>
<p>○ 九州大学はランキングでトップ 100 に入ることを目指しているとのことだが、研究や論文引用を強化することが課題であり、そのために国内外から突出した優れた研究者を呼ぶには思い切った制度も必要。</p>	<p>○ 制度としては、特定プロジェクト教員として年俸制での雇用が可能。魅力ある年俸制給与体系を構築する新たな年俸制の導入の検討を始めるとともに、現行の年俸制教員に適用している基本給表を平成 26 年 4 月から改定することとし、年間 2,500 万円以上の給与を支給することを可能とした。</p>
<p>○ 教育について、経済団体と一緒に人材育成に取り組んでいくことも重要。</p>	<p>○ 博士課程教育リーディングプログラムなどでは、企業からも講師として参加したり、インターンシップも行う。オールラウンド型の決断科学大学院プログラムでは多くの企業が参加するなど、様々な事業で経済界と連携しながら取り組んでいくこととしている。</p>